

未定稿

平成27年度 淀川水系流域委員会の主な意見 【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
資料-1

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（木津川）

地域委員会意見	専門家委員会意見
<p>◆危機管理分野</p> <p>①短期的にできることと長期的にできることと、整備局でできることと委員会で議論しなきゃいけないことというのを整理すると、今後の対応が具体的にになっていくのでは。</p> <p>②タイムラインというものを一つ避難勧告指示の発令基準の明確化、いわゆる要援護者に配慮したという主語に適合した内容として報告をいただいた方がいい。 マイ防災マップ等でも要援護者というところの観点をもうちよっと入れていただきたい。</p> <p>③「水防団の高齢化」の中身は別に高齢化というところにウエイトが掛かっていません。これに関しては、この計画の中で指標として水防団の高齢化に対するという指標を入れていくのが妥当なのかどうかについてもう一度検討していただきたい。</p> <p>④今年も何回か京都近辺で避難準備に関する情報が次々と出たがなぜこの地域にこういう情報が出たのかが、調べてもすぐにはわからない。水害関係の情報提供については、ポータルサイトがあるかどうかポイント。ポータルサイトには、整備局の情報を示す部分と、市町村に情報の示し方を例示する部分（ガイドライン）、各市町村の情報の入り口を示す部分で構成。これにより、地域住民にも避難情報の背景を理解するための情報が参照できる形になる。これらのポータルサイトでどの程度周辺情報を把握できるかを検討しておくことが必要。</p> <p>⑤避難勧告を出す必要はあるが、どこをどうやって逃げるのか、その辺も河川管理者から情報を出してもらって、自治体も情報を咀嚼しながら実際にどうやって行くのか体制づくりをやって行く必要がある。</p>	<p>⑥土砂移動について、危機管理という観点からすると、制御と実態把握だけでは不足でありまして、土砂移動の現状がわかったときに施設を整備することと同時に、こういうものが来たときの減災対策の促進という観点が必要でしょう。土砂災害に対する被害軽減対策、あるいは避難体制の整備状況をぜひ入れていただきたい。</p> <p>⑦「情報の発信の量の点検」、「確かに見てもらったという点検」、「利用されたという点検」という、3ステージでの点検が大事。 加えて、最近の水害の事例等をしっかりと出して、どうしてこういう情報なり、ハザードマップなりが重要かということを含めて情報発信することが大事</p>

未定稿

平成27年度 淀川水系流域委員会の主な意見
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
資料-1

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（木津川）

地域委員会意見	専門家委員会意見
<p>◆治水</p>	<p>①ダム操作について、点検の結果、ただ大丈夫でしたとだけでよいのか。予測とか、何らかの改善業務に取り組んだ上でよくなったということを示されるのか、そういうことがもっと理解されるようになるんじゃないかなと思う。</p> <p>②余りにも過剰に洪水を調節し過ぎると、川のダイナミズムが失われる。調節することは大事なんだけど、より精度が上がればその辺のところも、どういう規模の調節をすればどういう効果があってという、これくらいの効果、治水上安全かつダイナミズムも維持できる、そういうのも含めて今後ご検討をいただきたい。</p>
<p>◆人と川とのつながり</p> <p>①住民参加推進プログラム、住民・住民団体との連携状況、河川レンジャーの進捗状況等に関して、様々な活動を通して住民・地域の意識がどのように変わっていくのか、参画する住民の数がどのように変化するのか、くみ取れるよう工夫が必要。</p> <p>②それぞれの地域で少しでも川に関心を持ってもらうために、地域にとって水防上重要な場所などと距離標とを、適度に関連づけて、QRコードによる情報提供等を充実させていくことが必要。</p> <p>③河川愛護活動について木津上と青蓮寺ダムでゴミ回収量の記載があるが、地区別の人数、量の把握がされているのなら示していただきたい。地道な取り組みであるが今後の充実を図るためにも必要。</p> <p>④河川レンジャーは、河川管理に双方向性を持たせるために重要な役割を果たすというガイドラインをもっていると考えられ、直轄区間の活動について、定期的にそのガイドラインに沿って検証しつつ、また他地域や府県などに、そのような活動を促して行くということが必要。</p>	<p>⑤環境教育の効果というのを検証できないか。その結果によっては環境教育の内容をより充実させたり、レンジャーのモチベーションの向上にもつながると思うので、ぜひ何かそういう目に見える形で、その効果というのを現していただきたいと思います。</p>

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（木津川）

地域委員会意見	専門家委員会意見
<p>◆河川環境</p> <p>①魚の遡上について、それがどういうふうにも進んでいったのか。だんだん年度を追ってこういうふうにも改善していききました、今後こういう見通しでここまでは多分やれると思いますとか、そういった文脈で語っていただくと姿勢がわかってよい。</p> <p>②オオサンショウウオについては、上流へ移転させる個体数、量的な問題なんですけど、例えば100匹ほどを上へ上げたとしても、それに耐える環境が20しかないとならば1年、2年、3年たつうちに20に落ち付くということがあり、そういうことについてはモニタリングというよりも事前調査が非常に重要。</p>	<p>③イタセンパラの進捗状況について、「調査しました」というだけでなく、「こういうことがわかった」「こういうことが課題になっている」というところまでぜひ書いていただきたい。</p> <p>④外来種問題について、アレチウリとオオブタクサは、天井の高さよりも高いところまで繁茂しますので人が水辺にアプローチできない状況になっておりますし、アレチウリはとげだらけで、さわると非常に痛いので、人と川のつながりを阻害する条件になってしまっていますから、これについてはぜひ今後の対策に加えていただきたい。</p> <p>⑤フラッシュ放流について、高山ダムのフラッシュ放流に関して早急に検討していくべき。 上流のダム群につきましては、まずは400ぐらい置いてみようかというところからスタートしたわけです。その次のステップとしては、これまでの実績をちゃんと分析して、どのぐらいまで増やすことができるのかという仮説検証的な対策に入っていくべき。</p> <p>⑥水質の総量規制について、ソフト対策の話が多い。もう少し固いプロフェッショナルなアウトプットが必要。</p> <p>⑦点検の項目の分野を跨いでばらばらと出てくるものは、可能であれば相互に参照できるように。「定量的にここここを見ればよい」というような相互参照ができるとよい。</p>

未定稿

平成27年度 淀川水系流域委員会の主な意見
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
資料-1

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（木津川）

地域委員会意見	専門家委員会意見
	⑧「川らしい利用の促進」の中で、水生生物調査とか水質調査をした場合に回数だけではなくて、結果についても書いていただくとよい。「自分たちが何種獲ったんだ」ということが公にされることによって一種の張り合いができる。それから、環境モニタリングの視点からも利用価値のある情報になると思いますし、詳しく書く必要はないので、調査の結果についても記録として残しておいていただきたい。
◆利水	
①図面に表すときに、これが慣行水利の分といったところがぱっとわかるとよい。	
◆利用	
①イベントだけでなく、実際のところ川で遊びまくってる人たち、子供たちがどの程度いるのかという実態が把握が必要。また、漁やヨシズを生業としている方など一次産業の方の関わり方も川を特徴づける川らしい利用と思われる。 ②取り組み内容と実施数を指標に挙げているが、これだけではない感じがする。全部を把握するのは難しいが、まずはどこかの施設や何かの制度を登録されているところに、こういう取り組みをするときはご一報くださいという呼び掛けをするなど情報が集まるような工夫が必要。	
◆維持管理	
①出水期までに対策をする必要があるようなものと、経過観察のようなものの区分が必要。要補修箇所にカウントされている中で残っているものについて説明してもらえるとよい。	
◆全体	

未定稿

平成27年度 淀川水系流域委員会の主な意見
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
資料-1

◎事業の実施手法や進め方、実施結果等に関する主な意見（木津川）

地域委員会意見	専門家委員会意見
◆危機管理分野	
◆治水	
◆人と川とのつながり	
<p>①河川レンジャーの活動が独自に10年間されてきて、すごい蓄積がある。全国発信とかガイドラインとして訴えていくと言ったことが必要では？</p> <p>②小径については、歴史情報も自然情報も事務所はもっているの、それが分かるような冊子みたいな形で情報提供して欲しい。その結果、双方向に交流が始まる事も有るかもしれない。そういったことが大切だと思う。</p> <p>③河川レンジャーの数が余りにも少ないのでは。</p> <p>④直轄以外の府県や市では、住民に対する働きかけというのが余りなされていない様に思う。中小河川の住民・子ども達にもそういう環境教育をしていただきたい。</p> <p>⑤もっと多様な地道で長く関わっていかないとわからないような活動をなさってる方からも、レンジャーになっていただいたり情報を得ることも必要だと思います。</p> <p>⑥レンジャー活動がいっぱいあったらいいなという、アラカルトな話ではなく、整備計画を進めるくらいの、川の問題点、課題点を共有しながら、住民も市民参加で河川整備に関わっていくということを進めていただきたい。</p>	<p>⑦ある側面で川に関心を持ってくださっている方は、他の側面でも関心を持ってくださるポテンシャルを持っておられる方だと思います。ところが、川に親しみを持ってという活動をされている方と、一方で、防災を一所懸命取り組まれている方がなかなかコラボレーションされていないので、その川を危ないものとして主にご覧になる方と、いや、安全安全というふうに見られる方が、完全にスプリットしちゃってるところにいろいろ課題もあるのかなと思います。</p> <p>⑧環境教育みたいなところの活動が重要になってくる。意識を高めていくという活動がこれからは何より大事。 出前講座は小中学校の総合学習の時間ですが、指導要領が変わってきてこれからは総合学習も恐らくなくなっていく可能性もあるが、それに応じて減っていかないように積極的に教育できるような活動、ポジティブな啓発活動を続けていけるとありがたい。</p>

未定稿

平成27年度 淀川水系流域委員会の主な意見
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第3回地域委員会
資料-1

◎事業の実施手法や進め方、実施結果等に関する主な意見（木津川）

地域委員会意見	専門家委員会意見
◆河川環境	<p>①ヌートリアに関しては、イタセンパラがいなくなっている原因の一つにもなりえます。ヌートリアがイシガイを食べてしまうとタナゴ類は回復できないこととなりますので、木津川下流域でもこのヌートリア対策をすることが早急に必要である。</p> <p>②横断構造物による上下流の連続性の問題について、通常の上下流の連続性を回復する優先順位からいきますと、下流から改善していかなければ上流への連続性が回復しにくいわけで、下流を優先すべき。</p> <p>③不法投棄については、今の状況だと、個人のモラルに頼ってるだけであって、何かちょっと弱い。本気でやるんならもう少し厳しい対応が必要なんじゃないかなとは思っています。</p>
◆利水 ①慣行水利権の問題は、らちが明かないのが実態だと思います。ただ、環境用水で必要であれば、見直しの中でそれも上乘せしてやることができますよとかいう、新たな提案とセットにしながらやっていくというのが一つの方法ではないか。	
◆利用	
◆維持管理	
◆全体	